

山と博物館

第38巻 第3号 1993年3月25日

大町山岳博物館

山岳博物館展示改修 特集号



山と登山（1階展示室）

40周年記念、展示改修にあたって

山岳博物館が創立されたのは昭和26年11月1日のことであり、平成3年11月1日には40周年を迎え、大町市と友好提携をしているオーストリア・インスブルック市、及びアルペン動物園の関係者も列席し、記念祝賀会が催されました。現在の博物館の建物は3代目として、昭和57年6月に新装オープンしましたが、オープン以来大幅な展示改修は行われておらず、40周年記念事業の一つとして常設展示の改修が計画され、この度改修が終了しました。

今回の展示テーマは大きく2つに分けられます。1階の第1展示室は「山と登山」で、山と人のかかわりを紹介しています。北アルプスを中心にした登山の歴史を史的に紹介すると共に、海外登山コーナーでは新資料を加え充実しています。また、昭和20年代の針ノ木岳への「大沢小屋」を復元し、観覧する方々に山小屋の雰囲気体験してもらえよう配慮しました。

さらに、日本を代表するピッケルを製作年代順に展示すると共に、世界の代表的なピッケルの名品を一堂で紹介しており、これは日本における第一級の資料であると自負しています。

2階の第2展示室は「山岳の自然」で、北アルプスとその山麓の自然を環境別に展示すると共に、日本を代表する動物であるカモシカとライチョウの生活を季節ごとに紹介しています。また、それらの地に住む哺乳類、鳥類、昆虫類、爬虫類、植物なども展示しています。

今回の展示改修に当たっては数多くの方々よりご指導、ご支援をいただき、かつまた貴重な資料の提供をいただきました。ここにあらためて深く感謝申し上げます。

（大町山岳博物館館長 千葉彬司）

北アの山々に想いをはせて

— 山岳博物館展示改修 —

山と登山(1階展示室)

1階の展示室には8つのコーナーがあります。北アルプスの山小屋、北アルプスの登山史、登山の道具、ビッケル、ビデオコーナー、エベレスト周辺の地形模型、日本人の海外登山、遭難の各コーナーです。

北アルプスの山小屋

針ノ木谷の大沢出合付近にあった、昭和20年代の大沢小屋をモデルにしました。

また日本初の山案内人組合の設立者のひとりとして、登山者に様々な便宜を計った大町の人・百瀬慎太郎が大正14年に建てた間口3間奥行4間の山小屋です。

このコーナーでは、間口3間はそのまま、奥行を2間で断ち切った形で再現しました。誰もが自由に上がり込んで、囲炉裏端にあぐらをかくオヤジさん(人形)と記念撮影をするもよし、山仕事の道具を身に着けたり、キスリングザックを背負ってみるもよし、古い山岳雑誌を読むもよし。思い思いに山小屋の雰囲気味わっていただけます。

北アルプスの登山史

既設のショウ・ウィンドウ内で展開しています。写真パネルと、それに関連する実物資料を史的に展示している点は従来通りですが、各テーマを写真パネル上部に文字で示して、わかり易くしました。この改良は、後述する海外登山のコーナーや、2階のカモシカ



伊藤孝一のカメラなど

ライチョウなどのコーナーにも共通します。主な新展示資料をテーマごとに紹介します。

近世以前の山と人

○大町周辺から出土した石器類
古代人の山岳崇拜の祭場とも考えられている上原遺跡(大町市)の環状列石の写真を掲げ、旧石器時代から弥生時代までの石器類を展示しました。

○大町組絵図の写真

栗林士郎氏蔵、元禄11年(一六九八)の大町組絵図です。当時の後立山連峰についての認識がわかる興味深い絵図です。

近代登山の夜明け

○ウエストンの書簡など

一九三〇年(昭和5年)8月17日付、日本アルカウ会役員、山崎彦麿宛。機関誌「アルカウ趣味」掲載のためのメッセーじと、近況を伝える写真です。他にウエストンの献辞入りの著書「極東の遊歩場」も展示。



北アルプスの山小屋



狩野家「登山記念帳」など



手作りの狩猟・漁労具

○先駆的登山者の資料
志村鳥嶺のメモノート、『やま』『高山植物採集及培養法』などの著書と、白馬岳で採集したヒメウメバチソウの標本、中村清太郎の著書、冠松次郎の色紙などを追加。

近代登山の発展

○伊藤孝一資料
大正12年3月、伊藤孝一・百瀬慎太郎・赤沼千尋らは雪の立山・針ノ木越えを行い、困難な映画の撮影にも成功します。また、翌年の冬には薬師岳・槍ヶ岳の縦走も行います。ここでは伊藤の山行日誌、スチールカメラ、ムービーカメラ、万歩計などを展示しました。

○手作りの狩猟・漁労具

狩猟具は大町の南隣、松川村の鬼窪善一郎氏の皮はぎ用ナイフ、弾丸、雉、鵜。漁労具は大町市の曾根原文平氏の釣竿、毛針、たも網、魚びくなど。いずれも北アルプスを舞台に戦後活躍した両氏の工夫がにじみ出た道具です。

○手塚順一郎の著書と写真

大正から昭和の初めにかけて活躍した手塚順一郎は、大町にあってプロの山岳写真写家をめざしました。著書『山の写真のうつけし方』とその原稿、撮影された写真などを紹介しています。

登山の全盛期

○狩野家「登高記念帳」

大町市平区鹿島の鹿島山荘は、昭和の初めから鹿島槍ヶ岳をめざす多くの先鋭的登山者の基地となり、世話にあたった狩野きく能は「鹿島のおばば」と呼ばれ親しまれました。登高記念帳は昭和5年12月、堀田弥一に初めて記帳をすすめて以来、現在も記帳され続けている貴重な登山記録です。



登山の道具とビデオコーナー

登山の道具

向かって左から右へ、登山用具の変遷が大まかにわかるように展示しています。最も目につくのは様々な格好をした人形5体です。明治後期の案内者と登山者、昭和初期の夏山男性登山者、昭和30年代の夏山女性登山者、そして昭和50年代後期の氷壁登攀者を表わしています。

その他に、登山靴の移り変わり、スキー、背負い具、ロープ、杖類、コンロ、岩登りの道具などを展示しました。

ピッケル

国産ピッケルの双壁といわれている山内、門田の作風の変遷をたどるとともに、世界のピッケルを紹介しています。これは、東京都の平柳一郎氏ならびに日本山岳会の収集した資料を中心とする、質量ともに日本随一のピッケル資料です。1階ホールには特に貴重なピッケル9本とアイゼン4足を特設ケースに展示しました。

ビデオコーナー

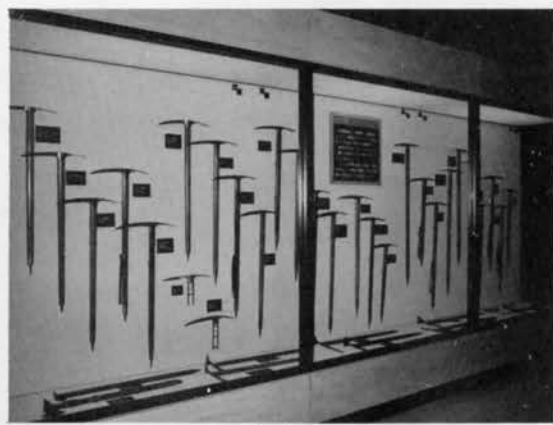
ピッケルにさざると、3分のビデオ番組がスタートします。伊藤孝一の大正12年の雪の立山・針ノ木越えの記録です。より詳しい映像をご覧になりたい方は受付にお申しつけ下さい。1階ホールで18分に編集した番組を見ることが出来ます。

エベレスト周辺の地形模型

世界最高峰エベレスト(中国名チヨモランマ、ネパール名サガルマタ)を中心とする地形模型で、縮尺は1万2千分の1です。今回は氷河の様子も表わして、より現実的なヒマラヤの雰囲気も表現しました。この模型を活用して、登山記録・気象・地形地質など様々な情報を順次提供する予定です。

日本人の海外登山

新設のショウケース内に、海外登山の先駆け、ヒマラヤへの道、八千mの頂に立つ、よ



ピッケル



日本人の海外登山

り困難を求めて、女性の海外登山の5つのテーマで展示しました。主な新展示資料を紹介いたします。

ヒマラヤへの道

○エベレスト 昭和45年 日本山岳会

頂上に立った大町出身の平林克敏氏の装備。より困難を求めて

○アルプス三大北壁登攀 昭和40〜42年

高田光政氏のザック、ヘルメットなど。

○グランドジョラス北壁冬季登攀 昭和46年

山学同志会・堀口勝年氏の装備。

○ジャヌー北壁 昭和51年 山学同志会

小西政継氏、河上清美氏、竹田幸司氏の装備。

女性の海外登山

○マナスル 昭和49年 日本女性マナスル隊

内田昌子氏の装備。

○エベレスト 昭和50年 日本女子登山隊

麻生文枝氏の登山靴、アイゼン。

○八〇〇〇m峰 無酸素速攻登頂

遠藤由加氏の装備。

山岳の自然(2階展示室)

2階の展示室は3コーナーとなりました。カモシカとライチョウを中心として山地から高山までの生き物を標本や写真で紹介するコーナー、北アルプスの地形・地質のコーナー、山林や耕地、湖、渓谷などの山麓の自然のコーナーです。

カモシカ

世界のカモシカの仲間のテーマではタイワンカモシカ、シロイワヤギなど5種類のカモシカの標本をみる事ができます。カモシカは世界に10種類いますが、いずれも北半球に生息しています。

野外でカモシカの姿をみることはまれですが、生活の痕跡として残された、食べ跡、糞、角とき跡などから、その生活ぶりを推測することができます。



かみかえしと角つぎをしているカモシカ



カモシカをテーマにした展示

くらしでは1日の行動やエサの摂食量などを図や写真で、また、標本は生態に基づいた姿の剝製で紹介しています。春の出産から冬を迎えるまでを子供を中心に四季を追っての写真や標本で紹介しています。

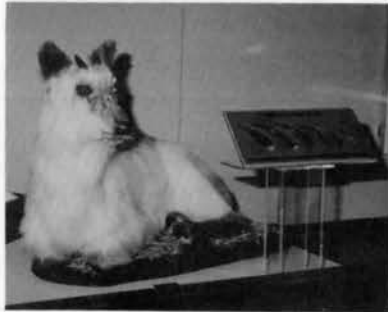
山地から高山までの生き物

北アルプスに生息する代表的な哺乳類、鳥類、両生爬虫類、昆虫を標本で、また、植物は写真で紹介しています。動物標本は子ダヌキがじゃれあうのを見守る親、サルのもつづろい、フクロウがネズミを捕える瞬間などその動物の生活の一部がわかるようなポーズです。

ライチョウ

世界のライチョウの仲間ではクロライチョウ、カラフトライチョウ、エリマキライチョウなどが展示してあります。ライチョウは亜種が多く、100種を越えます。

くらしでは、フ化したばかりのヒナから冬を迎えるまでの若鳥の成長



山岳博物館飼育第1号で、21年間飼育された「岳子」



ライチョウの成長



ライチョウの羽毛の変化



山地から高山までの生き物

がわかり、ナワバリや1日の行動を図で、砂浴びなどは写真で紹介しています。

ライチョウは夏と冬では羽根の色が変わることも知られています。羽毛の変化では9月の茶褐色から2月の白色までの変化を標本により示しています。これと対比させて、飼育ライチョウの羽根がどのくらい抜け落ちるのかわかるようになっていきます。

山麓の自然

珍しい鳥たち、耕地・村落・川原、仁科三湖、湿原と草原、山林、高瀬渓谷、北アルプス山麓の地形・地質の各テーマにわかれていきます。

北アルプスの地形・地質

北アルプスの地質図に主な山頂の石を置いてあり、北アルプスを構成している岩石が一目でわかります。

展示改修にあたり、次の皆さんには資料・写真などに関して特に協力いただきました。

(敬称略・五十音順)

- 赤沼淳夫 飯島八郎 飯田 肇 石坂久忠
 - 伊藤正一 伊藤都留子 牛越 充 遠藤二郎
 - 遠藤由加 大塚 融 大歳豊彦 鬼窪善一郎
 - 加賀高之 狩野正明 河合義則 川上清美
 - 北川喜芳 北原正宣 金田国武 栗林士郎
 - 小西政継 佐藤武彦 島田哲男 志村清美
 - 庄田元男 曾根原文平 高田光政 竹田幸司
 - 谷口義子 手塚俊男 同人ユングフラウ
 - 中村涼三 中山禎輝 長野県山岳総合センター
 - 日本カモシカセンター 日本山岳会
 - 幅 具義 平林克敏 平柳一郎 古幡和敬
 - 穂苅貞雄 堀口勝利 松倉富男 松田 勉
 - 丸山 彰 丸山喜康 百瀬 亮
 - モラス・ベーター 矢口勝義 山崎岳鷹
 - 山田正充 山本携拳 横浜開港資料館
- 記してお礼申し上げます。

山と博物館第38巻第3号

発行所 〒398長野県大町市 TEL 0267-2211
印刷所 長野県大町市 山岳博物館
定価 年額 1,130円(送料共)(切手不可)
郵便振替口座番号(長野四)133193(1)